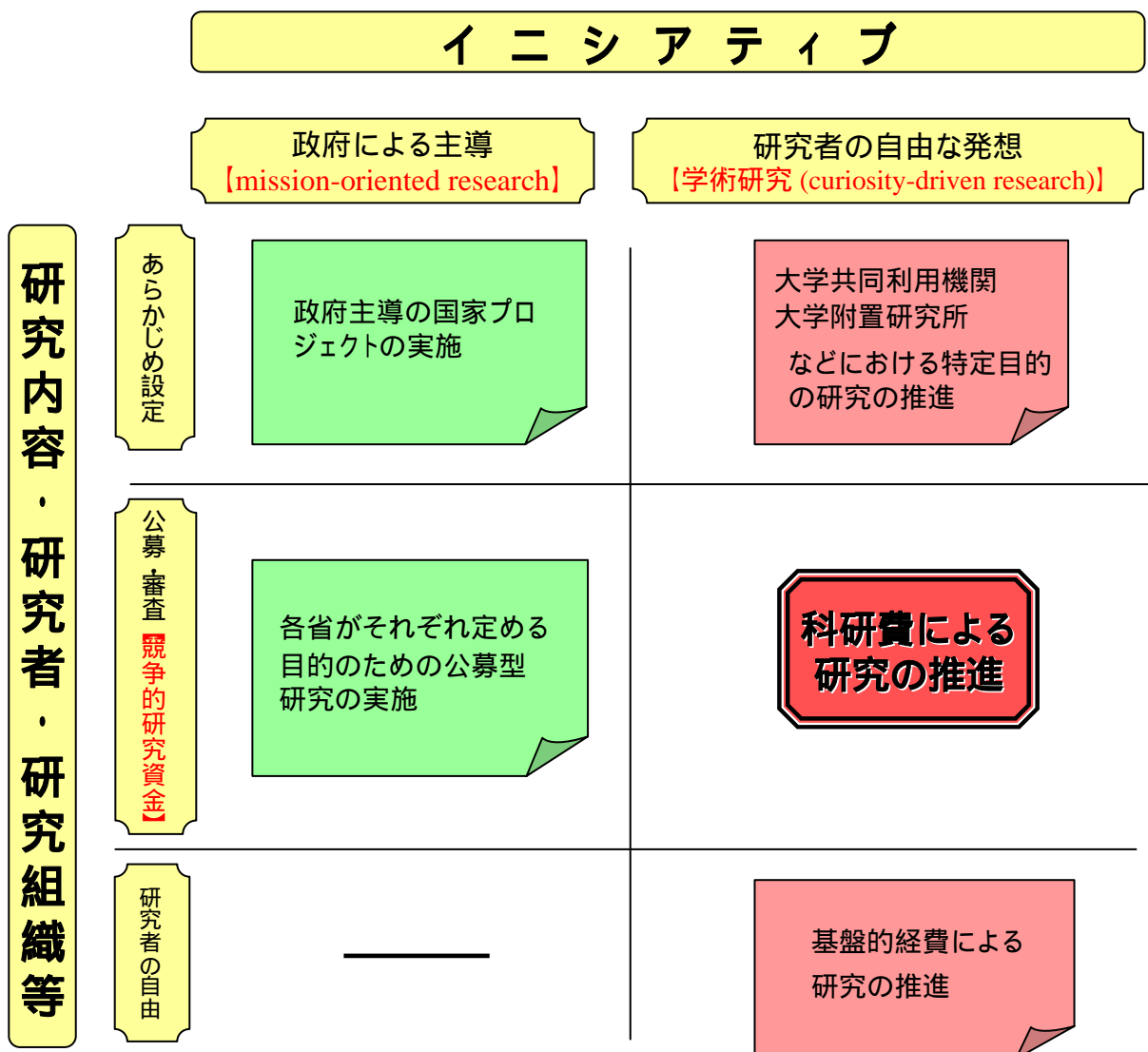


# 科学研究費補助金の位置付け

「科学研究費補助金」(科研費)は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

< 政府による研究推進の分類と「科研費」の位置付け >



科研費(1,880億円)は、政府全体の科学技術関係経費(約3.6兆円)の約5%、政府全体の競争的研究資金(約4,700億円)の約40%を占めています

# 社会への貢献の例

30年後の重点分野を育ててきた科研費

科研費による研究の多くは、短期的な目標達成よりも、むしろ長期的視野に立ったものであり、社会にブレークスルーをもたらす画期的な研究成果を多く生み出しています。ノーベル賞を受賞した研究成果の多くも、30年以上前の萌芽期から科研費によるサポートを受けています。

## 研究課題

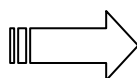
## 研究成果

「半導体多層薄膜構造による光集積回路用レーザーの研究」

末松安晴

(国立情報学研究所顧問)

(昭和41年度～ 一般研究, 基盤研究 他)



光通信の実現

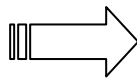
超高速のブロードバンド時代の  
実現

「ポリアセチレンフィルムの半導体としての応用に関する研究」

白川英樹

(筑波大学名誉教授)

(昭和44年度～ 試験研究, 基盤研究 他)



電気を通すプラスチックの  
実用化

携帯電話の電池など様々な電子  
部品などに利用

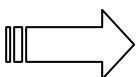
[ ノーベル化学賞(平成12年度) ]

「遷移金属錯体を用いる新規合成反応」

野依良治

(名古屋大学名誉教授)

(昭和47年度～ 一般研究, 特別推進研究 他)



化学物質の画期的な合成  
法を実現

・副作用のない薬品の製造などに広く応用  
・世界のメントールの約3分の1を生産

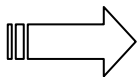
[ ノーベル化学賞(平成13年度) ]

「食品機能の系統的解析と展開」

藤巻正生

(東京大学・お茶の水女子大学名誉教授)

(昭和59年度～ 特定研究 )



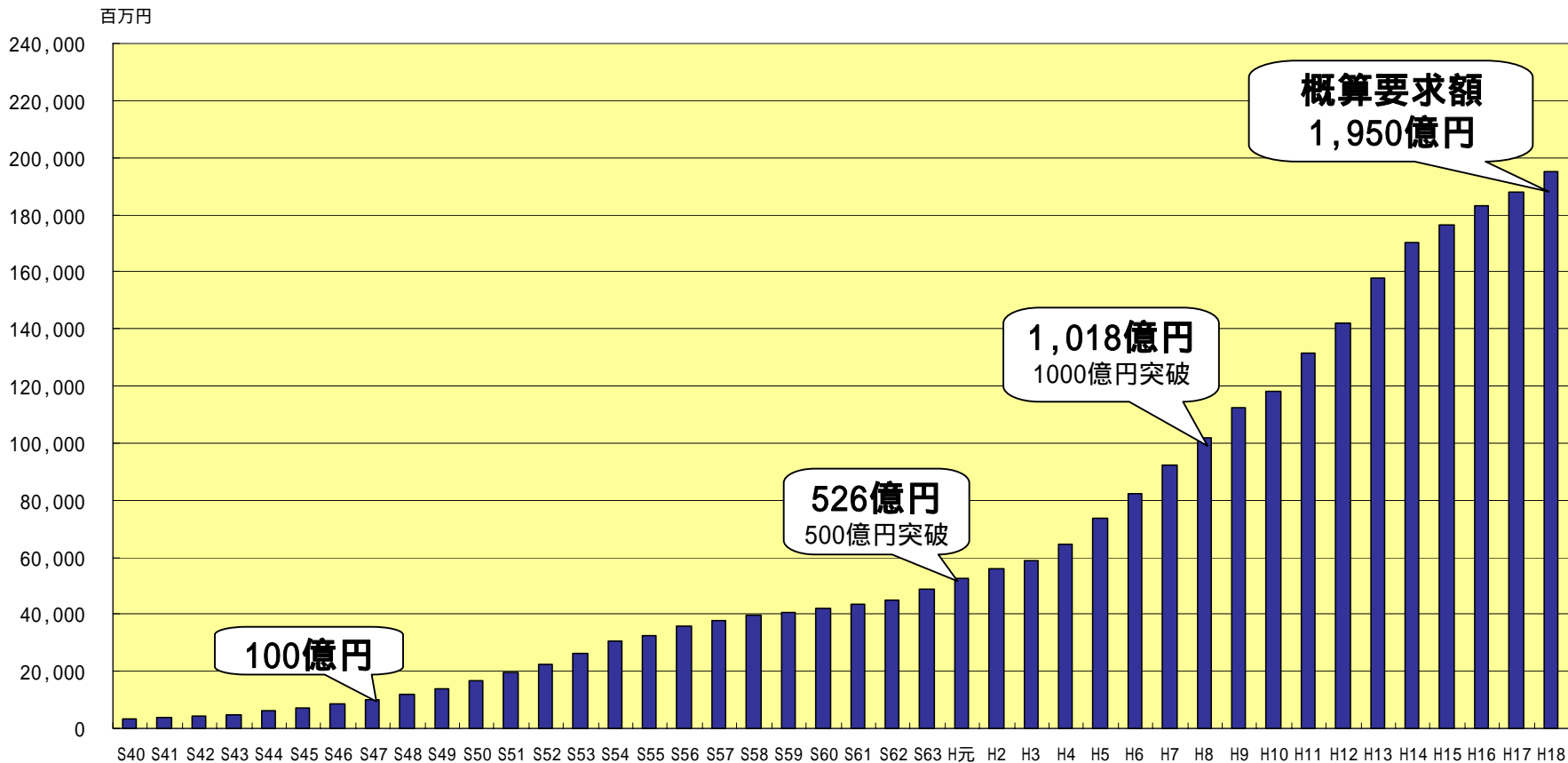
機能性食品( )という  
新しい分野の創出

生活習慣病などの病態に対応した  
機能を有する食品

(例: カロチン、リノール酸)

# 科学研究費補助金の拡充

## 科学研究費補助金の予算額の推移



# 科学研究費補助金の拡充・改革

研究者の自由な発想に基づく学術研究を幅広く推進

平成18年度概算要求額 195,000百万円 (17年度予算額 188,000百万円)

「経済財政運営と構造改革に関する  
基本方針2005」  
(閣議決定)

「科学技術基本政策策定の基本方針」  
「平成18年度の科学技術に関する予算、  
人材等の資源配分の方針」  
「競争的研究資金制度改革について  
(意見)」

(総合科学技術会議)

- ・競争的研究資金の拡充
- ・若手研究者の育成
- ・間接経費の拡充
- ・年複数回応募の実施
- ・独立した配分機関体制の構築
- ・審査体制の充実・強化

「科学研究費補助金の在り方  
について」(中間まとめ)

(科学技術・学術審議会  
学術分科会研究費部会)

独創的・先駆的な研究の  
重点的推進

若手研究者育成の充実  
- スタートアップ支援 -

間接経費の拡充

年複数回応募の試行

日本学術振興会への更なる  
研究種目の移管

審査・評価体制の充実